

輪之内町小学生鹿児島派遣事業を終えて

令和7年度 派遣団長

大藪小学校長 清水 泰浩

天の時、地の利、人の和

輪之内町では、次の目的により鹿児島への派遣事業を実施しました。

「宝暦治水工事」により今も輪之内町の発展があることを再認識し、その偉業を語り伝え、自分たちが今できることは何かを考える機会とするとともに、お互いの郷土文化への関心を深め、郷土を愛する気持ちを培う。

8月20日、小学生14名（昨年度より2名増）と引率者5名の計19名が、空路にて鹿児島へ向かい、2泊3日の研修を行いました。

多くの関係者に見送られ出発したものの、中部国際空港で航空機の出発が1時間遅れ、メインの目的地の一つである平田公園で学べないという試練が待っていました（後日、改めて学習しました）。しかし、移動中のバス、宿泊先のホテルで、鹿児島の豊かな自然や文化を感じることができました。特に、温泉と食事は子どもたちに満面の笑みをもたらし、仲間との心のつながりを強くさせたようです。

2日目は、鹿児島市立南方小学校を訪問しました。出校日に登校した全校児童36名が子ども達を出迎えてくれました。複式学級の5、6年生11名との交流では、子ども達が事前研修の成果を発揮し、にこやかな自己紹介の後、町のことを堂々と説明しました。一方、南方小学校の代表者



は、竹太鼓の演奏や作文、プールについて発表しました。記念品の交換をし、さらにたくさんのレクリエーションで心を通わせ、笑顔いっぱいになりました。最後は、全校児童に見送られ、バスに乗り込みました。

ここからは、突如発生した台風12号に翻弄されつつ、歴史観光施設で幕末・明治維新の鹿児島の偉人を学びました。そして、早めにホテルに戻り、温泉に入りました。

3日目、桜島の雄姿は見られませんが、錦江湾の生き物や溶岩、火山灰を目の当たりにすることができ、輪之内町と薩摩義士のふるさとの違いを実感しました。

この研修の機会に巡り合った14名の子ども達は、見学先や交流を通して、団としての心の結びつきを強くし、個人としても団としても学びや成長が多く、目的を達成しました。

この貴重な研修や成長の機会を与えてくださった輪之内町の関係者の皆様に、心よりお礼を申し上げ、結びとします。